

**[成果情報名]イチゴ長崎型高設栽培における主要病害の発生特性**

**[要約]**イチゴ長崎型高設栽培においては、地床栽培に比べて灰色かび病の発生は少ないが、果実にうどんこ病が発生しやすく、春先早期に発生し始める。

**[キーワード]**イチゴ、高設栽培、長崎型、灰色かび病、うどんこ病

**[担当]**総合農林試験場・環境部・病害虫科

**[代表連絡先]**電話 0957-26-3330、電子メールuchikawa@pref.nagasaki.lg.jp

**[区分]**野菜（生産環境）

**[分類]**指導

---

---

**[背景・ねらい]**

近年、本県のイチゴ生産においては、高設栽培の導入が図られ、栽培品種も従来の「とよのか」から「さちのか」への転換が進められている。このような栽培様式や品種の変化は、病害虫の発生様相に大きな影響をもたらすことが多い。鹿児島県の高設栽培では、灰色かび病の発生が多いが、うどんこ病の発生は少なく、栽培管理上の多灌水による植物体上の結露、溢液等による濡れが灰色かび病に好適で、うどんこ病には適さないことが要因とされている（上室ら、2003）。しかし、高設栽培の形式は各県で異なり、本長崎型においてはこれまでその知見がない。

そこで、イチゴ長崎型高設栽培において、主要病害の効率的で総合的な病害虫管理技術を確立するため、その発生特性を明らかにする。

**[成果の内容・特徴]**

1. イチゴ長崎型高設栽培においては、地床栽培に比べて灰色かび病の発生は少ないが、果実にうどんこ病が発生しやすい（図1，2，3）。
2. うどんこ病の春先の発生およびその増加は、地床栽培に比べ高設栽培で早い（図3）。

**[成果の活用面・留意点]**

1. いずれの試験も同一条件で育成した普通ポット苗を、隣接する同規格のビニルハウスに植え付けて行ったものであり、本圃においては無防除である。
2. 長崎型高設栽培ではうどんこ病が発生しやすいので、感染のおそれがある苗を植え付けた場合、特に発生に留意し、初発期前後から薬剤防除を行う。
3. 両病害の発生様相が鹿児島県の高設栽培（上室ら、2003）と異なるのは、長崎型高設栽培では床内に温湯管が設置されるなど栽培環境が異なり、イチゴ株間での湿度は高設栽培の方が地床栽培に比べ低く推移する（図4）ことなどが、両病害の発生に影響していると考えられる。
4. 長崎型高設栽培における主要害虫の発生特性については、既報（ながさき普及技術情報第25号，2006）を参考にする。

[具体的データ]

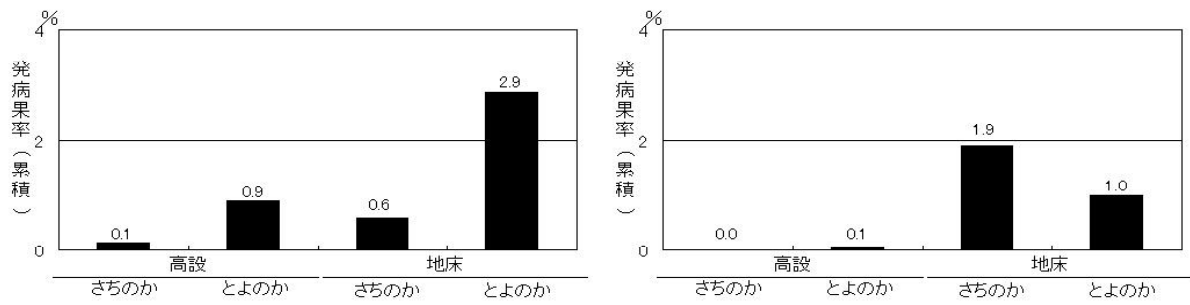
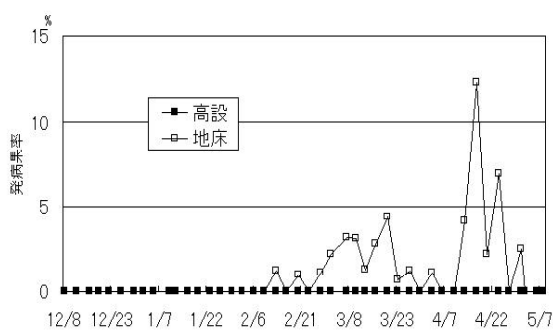


図1 イチゴ長崎型高設栽培と地床栽培における灰色かび病果の発生率  
(左: '04/12/4~'05/5/30, 右: '05/12/8~'06/5/)



29) 図2 イチゴ長崎型高設栽培と地床栽培における灰色かび病果率の推移 ('05~'06, 品種さちのか)

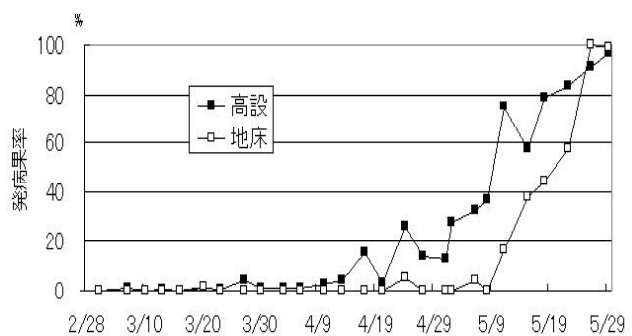


図3 イチゴ長崎型高設栽培と地床栽培におけるうどんこ病果率の推移 ('06, 品種さちのか)

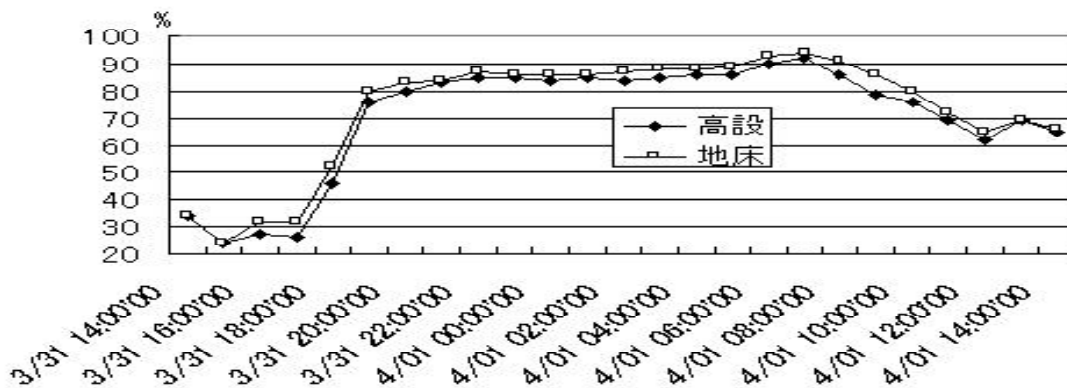


図4 イチゴ長崎型高設栽培と地床栽培における株間湿度の推移 (2006)

耕種概要	高設		地床	
	さちのか	とよのか	さちのか	とよのか
定植	2004年9月21日 2005年9月26日	2004年9月16日 2005年9月22日	2004年9月21日 2005年9月26日	2004年9月16日 2005年9月22日
施肥	長崎県の基準に準じる さちのかはとよのかの7割		長崎県の基準に準じる さちのかはとよのかの7割	
管理	温度管理は最低温度8℃ 地温は16℃ その他の管理は各区同様に行った		温度管理は最低温度8℃ - その他の管理は各区同様に行った	
その他	太陽シート設置			

[その他]

研究課題名: イチゴ高設栽培における  
病虫害の効率的・総合管理技術確立  
予算区分: 県単

研究期間: 2004~2007年度

研究担当者: 内川敬介、小嶺正敬、片岡正登、松尾和敏